

佐賀市 36 歴史探訪

くぼいずみしょうがっこう しせきぼおおいし 久保泉小学校の支石墓大石

久保泉小学校の校庭隅に、大きな石の記念碑があります。これが弥生時代の支石墓の墓石であったことを、皆さんはご存じでしょうか。

もともとこの石は、金泉中学校南側の田んぼに顔を出していたという大石です。昔から「正現さん」(正現稲荷神社)が山から投げ下ろした石といわれ、動かすと雷が鳴るので動かすことができないと伝えられていましたが、40年ほど前に記念碑に転用されて現在に至っています。

また、この大石を動かした時、その下に大型の甕棺かめかんが埋まっていたといえます。このことから、この大石は支石墓であったと考えられ、大型の甕棺があったとするならば、年代は弥生時代前半(紀元前200年頃)と考えていいでしょう。

支石墓は、弥生時代初めから前半にかけて造られたお墓の一種です。地面に墓穴を掘って埋め戻し、その周りに数個の石を置いて、その上に大きな平たい石を据えて墓石とします。数個の石で地面から離して墓石を支えることから「支石墓」と呼ばれます。墓穴の中には甕棺が収められていることもあります。この支石墓は朝鮮半島南部から伝来し、佐賀県・福岡県を主とする北部九州地方に分布してします。久保泉丸山遺跡では、100基近くの支石墓がまとまって発見され、話題を集めました。

昔は田んぼから突き出た支石墓と考えられる大石が金立・久保泉地区では数多くあったようですが、今では民家の庭先などにいくつか残っているだけです。この小学校の片隅にある大石はそうした歴史を教えてください。

一口メモ

久保泉丸山遺跡で発見された支石墓の一部は、古墳とともに金立公園の一角に移築・復元され、公開されています。支石墓がどのようなものか分かりますのでこちらにもおいでになるといいと思います。



▲金泉中学校の南側



▲久保泉小学校の記念碑



▲久保泉丸山遺跡の支石墓(移築後)

